第４２７回鉄鋼流通問題懇談会

２０１３年１１月２２日（金）１４：３０
日本鉄鋼連盟４階・第１会議室

議　題

１．配布資料説明（全鉄連）
２．全鉄連情勢報告
（１）地区の状況
〇東京、大阪、愛知、富山地区概況報告
（２）その他地区の概況
〇鉄流懇１１月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
（３）総括：林全鉄連会長
３．意見交換
４．経済産業省挨拶
５．鉄流懇会長挨拶
６．その他

〇次回以降会議予定
２０１３年2月２１日（金）１４：３０　～　　於：日本鉄鋼連盟４階・第１会議室

鉄鋼流通問題懇談会　品種別動向について（2013 年 11 月）

発表項目＼発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事	阪和興業	三井物産
１．需給動向（景況感）	国内復興需要、景気回復に伴う設備投資増など受けて、建築、太陽光発電等エネルギー関係、造船の底打ち、自動車、産機向け販売は上向いており、流通各社の鋼材荷動きは活発化している。市況についてはメーカーからの値上げ分の転嫁に急いでいるが、完全に転嫁を出来るほどの需要の盛り上がりは無くやや遅れぎみ。メーカーについては、鉄源のタイト感と母材コイルの逼迫感から、一部注文を受けられないという話しもあり、品薄感が出始めている。	2013 年 9 月末の薄板三品在庫（速報値）は 387 万 6 千ﾄﾝ（前月比 4 万 1 千ﾄﾝ減）と 11 カ月連続で 400 万ﾄﾝ割れをｷｰﾌﾟした。在庫率も 2.15 カ月と適正水準に近い。年初から年央にかけての鉄鋼メーカーによる需要見合いの生産調整期を経て、自動車国内生産台数の上振れ、建築需要の好調維持などを背景に需給は急速に引き締まっている。鉄鋼メーカーはフル生産対応するものの、製造ラインのトラブルも続き、一部の品種では品薄感も出ている。	９月の全国厚中板在庫量は３５６，９７２トンで前月比４，３７８トンの微増。在庫率は１９６％で前月比１０．９％減。出荷量は１８１，６７５トンで前月比１１、８２６トンの大幅増（前年同月比１３．５％増）。各指標が大幅に改善傾向。 シャーリング業者は月毎に稼働上向きとなってきており、切板価格についても、在庫単価上昇と受注好調を受け値上げ本格化。	棒鋼：関東地区の発注数量は 10 月 29 万トンと回復傾向が強まった。8 月からのスクラップ上昇 17%に対しメーカー製品価格は徐々に上昇するも旧価格契約残を抱え採算割れの苦戦続く。 形鋼：各メーカー共値上げを表明し着実に浸透しているが、 代表品種の H 形鋼は歯抜けサイズが続出し上昇に力強さ見られるが、一般形鋼はやや力強さに欠ける。
２．需要産業動向	自動車分野については、エコカー補助金終了による反動減が響いたが増税前の駆込み需要により国内生産内示増加傾向にある。造船需要は円高是正を追い風に海外勢に対する価格競争力が出始め、造船向け鋼管需要もやや回復傾向。建機については、排出ガス規制強化と消費税増税の駆込みにより国内需要はやや増加しているが、鉱山用大型建機は需要低迷。建築土木については、東北震災復興や関東地区を中心とした物件が増え需要増。太陽光発電設備等の新エネルギー分野も本格的に動き始めており鋼材需要は増加している。	2013年9月の四輪車国内生産台数は87万4千台となり、エコカー補助金終了後１年間続いた前年同月割れに終止符を打ち、前年同月比 12.7%増となった。下半期も年換算では 1,000 万台を上回るペースでの生産が見込まれる。 建築分野では 9 月の新設住宅着工戸数が 8 万 8,539 戸（前年同月比 19.4%増）となり、13 カ月連続で前年同月を上回った。消費増税前の駆け込み契約は 9 月末までに一巡し先々の受注に若干陰りは出ているが、ハウスメーカーの生産は引き渡し時まで高水準を維持するだろう。また住宅ローン減税制度の拡充、2015 年度の消費税の再増税も予想されること、また東京オリンピックに向けた新設・改築物件も増えると見込まれ、当面住宅・非住宅ともに需要が衰える兆候は少ない。 復興・公共工事が需要の主体である東北・北海道の荷動きは、民需比率の高い関東以西に比して緩慢である。最大の問題は従来から指摘されている人手不足・生コン不足・輸送能力不足などであり、引き合いや実需があっても対応しきれていないのが実情。	９月末造船手持工事量は２５，２５０ＧＴで、前月ほぼ変わらず。９月の建設機械出荷金額は２２４１億で前年同月比１１．２％増（２か月連続）建築関連においても好調継続で、ＦＡＢの山積も膨れ上がっており年度内の仕事量確保、また選別受注の状態。	棒鋼：9 月の新設住宅着工戸数は前年同月比 19.4%増の 88,539 戸。消費税増税前の駆け込み需要によりマンション着工は前年同月比 35.6%増の 12,497 戸等大幅な増となっている。一方、出荷は、鉄筋工、型枠工、運転手不足等の労務問題の影響で思うように伸びていない。 形鋼：鉄骨需要は 13 年度上半期前年同月比 16.8%増の 278 万トン。消費税増税前の駆け込み、東京・名古屋の大都市圏で超高層の再開発案件の着工、物流施設の需要も底固く 550 万トンの憶測も出ている。
３．輸出入動向	2013 年 9 月度鋼管輸出量は継目無鋼管：10.9 万トン（前月比-1%）、溶鍛接鋼管：14.3 万トン（前月比+37%）。輸入量は、溶鍛接鋼管：1.4 万トン（前年同月比+27%）となった。	2013 年 9 月の薄板三品の入着量は 22 万 6 千ﾄﾝ（前月比 3 万 8 千ﾄﾝ減、前年同月比 6 万 3 千ﾄﾝ減）となり 2013 年 1～8 月の平均の 24 万 4 千ﾄﾝに比しても低水準となった。背景には韓国ミルのトラブルに起因する熱延鋼板の大幅な減少（8 月までの平均入着数量である 8 万 2 千ﾄﾝに対し 9 月は 4 万 7 千ﾄﾝ）がある。 9 月の普通鋼鋼材輸出量は前年同月比 2.4%減の 227 万 1 千ﾄﾝとなった。需要が高まらない韓国・台湾向けに加えタイなど東南アジアの景気が減速したこと、国内の需給タイト化で輸出枠が抑制されたことなどが影響した。 薄板類も熱延鋼板が前年同月比 4%増となった以外は、冷延鋼板で同 7.3%減、亜鉛めっき鋼板で 17.6%減となっている。	９月の輸入通関３０、０８５トンで８月比３，３００トン増加。韓国材がほとんどで、２７，３００トン。ここ直近３０，０００トン/月前後継続。韓国、台湾メーカーは３Ｑ対日価格値上げ。円安の影響もありしばらくは様子見。但し、韓国メーカーは能力増強が有り、また中国の過剰供給力も含め今後の国際市況は注意必要。	棒鋼：9 月輸出 15 千 MT 内、韓国 13 千 MT、インドネシア 1 千 MT。 形鋼：9 月 H 形鋼の輸出は昨年来最多の 56.7 千 MT を輸出。香港向けを除き各国共に軒並み増加となった。 韓国向けが 13 千万 MT。インド向けが 11 千 MT。台湾向けが 8 千 MT。
４．海外市場動向	油井管：低級品価格は下げ止まった模様だが、大きく戻す気配もなし。高級品は、米国が一時期に比べ需要鈍化しているものの、他地域は堅調に推移、全体として堅調。 ラインパイプ：下期、日本ミルは全体的に鉄源が不足している模様で、タイト感が生じており、今期商談枠が減少している。	中国は内需停滞と能力過剰により、インドもルピー安と内需の成長鈍化からともに輸出を拡大させている。両国に挟まれる東南アジア市場が攻勢を受けている格好だが、同地域でも鉄鋼の能力増強が進み、需給の緩和が鋼材市況を押し下げている。 世界最大の鉄鋼輸出国である中国は8月に5年ぶりに輸出が600万ﾄﾝを超えた後も10月までに暦年累計で5,197万ﾄﾝと前年同期比13.6%増、過去最高の2007年に迫るペースで輸出している。 中国鉄鋼各社は秋需をテコに年末の決算期に向け販売価格の引き上げに動くだろうが、国内外の需給緩和に伴い思うような値上げができるかは不透明な状況にある。	韓国２０１３年船舶建造量が前年比１０％減の２８３０Ｇｔ。ポスコ、現代と韓国厚板ミルの設備増強も有り、下期以降の厚板需要は不透明。	棒鋼：価格はｽｸﾗｯﾌﾟ高を背景に強含み推移。東南ｱｼﾞｱのﾌﾟﾗｲｽﾘｰﾀﾞｰである中国産鉄筋も 11 月初旬の中央委員会第三回委員会（三中全会）での政策期待が先行し 10 月末 USD10-15/MT 程度上昇。日本材はｽｸﾗｯﾌﾟ高から厳しい商談が続く。 形鋼：欧州需要の低迷を背景に欧州メーカーのアジアマーケット（香港、シンガポール、マレーシア、ベトナム）での販売攻勢が続き、日本を除くアジアメーカーも市況に併せた価格対応し市況の上伸スピードは遅い。 日本マーケットだけが好調を維持しており、内外価格差は更に拡大傾向にある。
５．トピックス				

鉄鋼流通問題懇談会　メーカー発言（2013年11月）

発表者 発表項目	メーカー ＪＦＥスチール
１．需給動向（景況感）	・　日本経済は着実に回復軌道を辿っている。９月の鉱工業生産指数は２ヶ月ぶりに前月比増となり、また、自動車販売は軽を主体に新型車が好調で、住宅着工も年率１００万戸超となるなど、個人消費は消費税増税前の一部駆け込み需要を背景に堅調に推移している。 ・　国内の１０月の粗鋼生産は前年同月比＋７．７％の９５２万トンと２ヶ月連続の前年比プラスとなった。普通鋼鋼材出荷（９月国輸計）は前年同月比４．１％増の６２９万トンと３ヶ月連続で増加した。（内国内が＋７．２％）　９月の普通鋼鋼材輸入は前年同月比▲１９％の３１．６万ﾄﾝと２ヶ月連続の減少となった。 ・　１３年度の鋼材内需は前年比で増加すると想定している。主に自動車生産が円高修正の定着もあり堅調であること、また建設業向けは補正予算効果や住宅投資などを中心に堅調が継続している。経産省生産計画は１３年度１０－１２月は２８４８万ﾄﾝであり、年度換算すると１３年度は前年比４．７％増の１億１２００万ﾄﾝレベルとなる見込みである。
２．需要産業動向	〔建　築〕９月新設住宅着工戸数８．９万戸（前年同月比１９．４％増）。１３ヶ月連続のプラス。 〔自動車〕１０月国内販売３９．７万台（前年同月比１８．４％増）。 ９月完成車輸出４２．２万台（〃１０．２％増）。 ９月四輪車生産８７．４万台（〃１３．０％増）。 〔産業機械〕１０月工作機械受注　前年同月比８．４％増の１０２２億円。１８ヶ月ぶりの前年比増。 〔造　船〕１０月末手持工事量　２，５１２万ＧＴ（前月比０．５％減）。
３．輸出入動向	〔輸出〕９月の全鉄鋼輸出は、３４８万トン、前年同月比２．３％減と２ヶ月振りの減少。 〔輸入〕９月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比１８．６％減の３１．６万トンと２ヶ月振りに減少となった。国別では、韓国（前年比２７．８％減）が２ヶ月振り、中国（〃７．０％減）が１９ヶ月連続で減少した。一方台湾（〃９．７％増）は３ヶ月連続の増加となった。
４．海外市場動向	海外では、９月の世界粗鋼生産（62カ国）は、前年比６．１％増の１億３２５５万トン となった。うち中国粗鋼生産は６５４２万ﾄﾝと前年比＋５．４％の増となり、中国ミルの生産は依然過去最高水準である。１０月は若干減少したものの６５０８万ﾄﾝと高水準継続。 世界的には供給過多の構造には変化なく、鋼材市況も８月を境に下落基調となっている。